

臨床と教育でどう取り組むか 「演習との組み合わせで考える統合実習」

廣門三千子[†]第65回国立病院総合医学会
(平成23年10月8日 於 岡山)

IRYO Vol. 67 No. 3 (136-138) 2013

要旨

平成21年のカリキュラム改正で臨地の刻々と変化する状況に対応できるよう統合実習が位置づけられた。千葉看護学校では看護実践能力をより高めるため統合実習前後に臨床看護技術演習を設定した。統合実習で新たな学習内容はケアマネジメントとサービスマネジメントと考えた。とくにケアマネジメントには、刻々と変化していく中で援助を選択し、ケアの優先度を決定しながら実践することを学ばなければならない。そのため統合実習前の演習目的は、複数患者を受け持ち援助することをイメージ化できるとした。1回目の演習では、事例提示し、学生に自由に思考させ実践させた。2回目に臨床実習指導者が考える臨地をイメージした援助を教員が演習してみせたことで学生は、1. 優先度はその時々状況によって変化すること、2. 看護計画は、その時々患者の状態に合わせて修正しながら援助を行うこと、3. 患者のベッドサイドで患者の意向を取り入れた援助の方法がわかったと理解を深めて行った。そこで統合実習に向けて実習指導者には、看護実践の中で指導者が考える患者のケアの根拠の説明をする、指導者の看護実践を直接観察させるまたは共に実践する機会をつくる、そして看護について共に語り合うことを指導方法として依頼した。この方法で行うことは学生が複数患者の全体像を描けるようになりベッドサイドで患者の意向に耳を傾け患者と共にケア計画をしていけるようになる。また複雑な状況下での優先度の決定を行うことは体験を意味づけることになり学びは深まると考える。実習指導者と共に看護実践を行い現場でタイムリーに行われる看護実践と患者の反応から、看護実践能力を自分のものとして獲得し生かす実践力を身につけることができると考える。

キーワード 統合実習, 臨床看護技術演習, 看護実践能力

はじめに

臨床は一回性（再現性のないもの）のものであり、医療現場は、刻々と変化している。学生は、臨地実

習で一人の患者を受け持ち、これまで学習した知識と技術を統合し、患者との直接的な触れ合いの中から問題解決にあたり、さまざまなことを学んでいる。しかし、めまぐるしい医療現場の変化や予期せぬ出

国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校 教育主事 †教員
(平成24年2月27日受付, 平成24年12月14日受理)

Approach to Nursing Care Education Combining On-site Training and Exercise : Combination Training with Exercise
Michiko Hirokado, Chiba Nursing School

Key Words : comprehensive practice, clinical nursing skill exercise, nursing competence

来事に戸惑ったり、ついていけなかったりする。また、人間関係やさまざまな問題に遭遇し、看護の難しさを体験している。統合実習は、今後看護師として、刻々と変化する状況に対応できるよう、看護実践能力を養うことを目的とする。

統合実習の位置づけ

これまで学生は、成人看護学実習、老年看護学実習、母性看護学実習、小児看護学実習で、急性期、慢性期、回復期、ターミナル期の看護のように、成長発達段階別、経過別に看護を輪切りにした状態で学んできた。統合実習の統合とは「看護の統合」である。統合実習では「一つの幹」として学ばせたい。その際、多重課題が話題になるが、これまで一人の患者を受け持ち看護してきたことも多重課題であり、看護管理、医療安全等の学習は盛り込み学んできた。統合実習で新たに学ぶことは、「ケアマネージメント」と「サービスマネージメント」と考えた。

実習目的・目標

実習目的：保健医療チームの一員として看護を統合かつ継続的に展開し、看護が実践できる能力を養う。

実習目標：

- 1) 看護チームの一員として、対象の状況をふまえ、適した援助を選択し、看護を提供する方法を学ぶ、である。
 - (1) 受け持つ個々の患者の情報を整理し、おこりうる状況を推測する。
 - (2) 複数の受け持ち患者のケアの優先度を根拠づけて説明できる。
 - (3) 複数の受け持ち患者の状況の変化にともなった援助の変更を説明できる。
 - (4) 複数の受け持ち患者の状況に合わせて、適した援助を選択し、指導者と共に実施できる。
- 2) 看護管理の実際を見学し、医療チームにおける看護師の役割を関連づけて学ぶ。

ここでは目標1)について述べる。ケアマネージメントできるために優先度に注目し、複数の患者のニーズを満たすために何をするのか、まずは個々の情報を整理し、ケアに要する時間配分を考慮し、スケジュールを想定する。タイムマネージメントの能力も要求される。刻々と状況が変化していく中で援

助を選択し、ケアの優先度を決定しながら実践することを学ばなければならない。優先度を判断する能力を身につけていくことは、限られた時間の中で、患者にとって最良のケアを行い、患者の満足度を高めることができる援助を行うため必要不可欠である。

演習計画

- 1) 演習目的1 (統合実習前)：複数患者を受け持ち援助することをイメージ化できる。

事例：脳梗塞、2事例、回復期の日常生活援助に対して行動スケジュールを立てる。回復期にある2名の脳梗塞(左上下肢麻痺)患者を設定した。同じ病期：回復期、異なる障害の程度、異なる安静度、異なる年代とし、入院時情報(急性期)、現在の情報(回復期)を提示した。
- 2) 演習目的2 (統合実習後)：事例のケアの優先度を考えた日常生活援助、事例に対応した診療の補助技術の習得ができる。

事例：3事例、急性期、回復期のA氏、B氏、C氏の個々のケアの優先度を判断し、日常生活援助、診療の補助技術を実施した。

演習の実際

まず、1回目は、事例を提示し、考えられる援助を学生だけで自由に思考させ、実践させた。2回目は、臨床実習指導者が考える臨地をイメージした援助を教員が演示してみせた。1回目2事例の展開を行った演習での学生の優先度の決定は、①患者の生命に関わること②安全に関わること③患者の苦痛にかかわること④患者の自立度に関わること、看護過程の優先度の考え方そのままであった。

一方、実習指導者の環境整備時の援助は、1. B氏の方が看護度は高い。B氏に時間を使うと判断している行動計画を立てる。A氏は自立度が高いため、見守り程度と判断した。2. カーテンを開け、話しながら構音障害の程度を確認。動きはみない。次にバイタルサインの測定で訪室するから。訪室する理由によって置きたい。3. 麻痺側を動かすことで苦痛だから何度も痛い思いはさせなくてすむ、などであった。

臨地をイメージして実習指導者が考えた優先度は、1. 看護度(病期・病態・ケアの量)の高い方を優先しケアに必要な時間を計算する。2. 最初の

ケアで患者の状況を観察し、ケアの必要性を判断する。3. 時間指定のある医師の治療の指示を最優先とする。4. 今すぐ必要なケア、ケア後の休息、今日行うと考えた目的のケアの順に組み立てる。5. 目的のケアを行う前に、カンファレンスのテーマに「ADLの拡大」を入れる、であった。2回目の演習で教員は、実習指導者が臨地をイメージして考えた援助を踏まえた演習をしてみせた。教員の演習を観察していた学生の学びをまとめると1. 優先度はその時々状況によって変化すること、2. 看護計画は、その時々患者の状態に合わせて修正しながら援助を行うこと、3. 患者のベッドサイドで患者の意向を取り入れた援助の方法がわかったと学びが深まっていった。今まで、一人の患者のことだけを思考してきた学生が、指導者（教員）の演習を観察することで、臨床で展開される看護ケアの状況を判断する道筋を学ぶことができた。

統合実習で学んでほしいこと

実習指導者は、個々の患者の全体像を描きながら、一日の組み立てを行う。さらに、刻々と変化する状況の中で、その時々判断を加え、ケアの優先度を変化させ、援助を組み替えている。看護学生（また新人看護師）が、優先度を判断する能力を身につけていくためにベナーは¹⁾「達人としての専門性は、達人の行為を直接的に観察することと達人との関わり（言葉による伝達を含む）の両方を通じて、教えられ把握されるべきものである」と述べているように、統合実習で指導者と共に学ぶことができれば

先度の決定方法は拡大すると考えた。

そこで、実習指導者に1. 看護実践の中で、指導者が考える患者のケアの根拠の説明をする、2. 指導者の看護実践を直接観察させる、または共に実践する機会をつくる、そして、3. 看護について共に語り合うことを指導方法として依頼した。実習指導者にこの方法をとってもらうことで学生は、複数患者の全体像を描けるようになり、ベッドサイドで患者の意向に耳を傾け、患者とともにケア計画していくことを学ぶ。また、複雑な状況下での優先度の決定は体験を意味づけることで学生の学びは深まると考える。看護を統合し「一つの幹」として学ぶと、実習指導者とともに臨地でのタイムリーに行われる看護実践と患者の反応から看護のありようを捉えることができる。さらに、学生は、現場で腑に落ちる体験をすることで看護を自分のものとして獲得し生かす実践力を身につけることができるようになると考える。

〈本論文は第65回国立病院総合医学会シンポジウム「臨床と学校で統合実習にどう取り組むか」で「臨床と学校で統合実習にどう取り組むか」として発表した内容に加筆したものである。〉

[文献]

- 1) パトリシア・ベナー. 達人の技を言葉にすることの意味. ナーシング・トゥデイ 2002; 17(12): 8-12.